

## Are trained individuals more likely to perform bystander CPR?

### An observational study.

#### バイスタンダーの心肺蘇生講習会受講歴が 内因性院外心停止患者の転帰に与える影響について

Resuscitation 2011; 82 (5): 523-528 DOI information:10.1016/j.resuscitation.2011.01.027

谷川 佳世

#### 背景・目的

日本では年間約 5~6 万人の心臓突然死が起こっていると報告されている。心停止患者を救命するためには早期の心肺蘇生の実施が重要であるため、消防や日赤が中心となり、一般市民に対して心肺蘇生講習会が数多く実施しているが、その効果についての検討はほとんど行われていない。そこで本研究ではバイスタンダーの心肺蘇生講習会受講歴の有無が、心停止現場での心肺蘇生の実施や院外心停止患者の転帰に影響を与えるか否かについて検討する。

#### 方法

大阪府高槻市で 2008 年 1 月から 12 月に発生した、18 歳以上の内因性院外心停止患者とその患者の救助に関わった者を対象とした。心肺蘇生講習会受講歴をはじめとした救助者に関するデータは心停止現場で救急隊が聞き取り調査を行い、院外心停止患者に関するデータはウツタインデータを用いた。主な評価項目は救助者の心肺蘇生実施とした。

#### 結果

##### 1. 心停止患者と救助者の特性

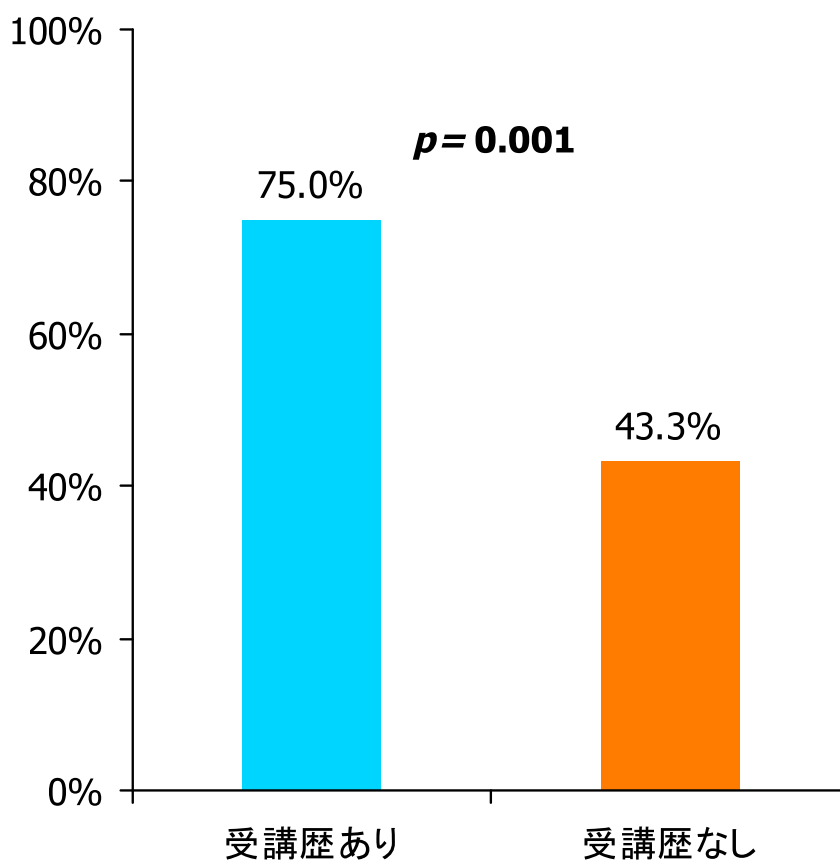
期間内に 170 例の内因性院外心停止が発生し、120 例が解析対象となった。120 例のうち、主な救助者が心肺蘇生講習会を受講していたもの（受講歴あり群）は 60 例（50.0%）であった。救助者は、両群とも女性が約 60%、平均年齢は受講歴あり群では 53 歳、心肺蘇生講習会を受講していないもの（受講歴なし群）では 61 歳であった。

##### 2. 救助者の救命行動

受講歴あり群では、受講歴なし群と比較して心肺蘇生を実施した者の割合が高く（受講歴あり群 75.0%、受講歴なし群 43.3%； $p=0.001$ ）、受講歴あり群のほうが受講歴なし群よりも、3.4 倍心肺蘇生を実施しやすいことが明らかになった（図）。また、講習会を 1 年以内に受講した者は、81.0%が心肺蘇生を実施していたが、3 年以上前に受講した者は、68.0%しか実施していなかった。

受講歴あり群では AED の知識を有していた者の割合が高く（受講歴あり群 88.3%、受講歴なし群 45.0%； $p<0.001$ ）、AED を知っていた者のうち、AED が心停止現場近くに設置されていた場合に実際に AED を使用した者の割合は受講歴あり群では 40.0%であったのに対し、受講歴なし群では 0.0%であった。

(図) Bystander CPR 実施割合



受講歴あり群の方が、なし群と比較して Bystander CPR を行っている人が多かった。

### 3. 心停止患者の転帰

心停止患者の生存については症例数が少なかったため十分に評価できなかったが、受講歴あり群では、2例 (3.3%)、受講歴なし群では1例 (1.7%) が1ヵ月後脳機能良好な状態で生存していた ( $p=0.500$ )。

### 結語

心肺蘇生講習会の受講は、心停止現場での心肺蘇生実施と関連していた。心肺蘇生講習会の普及は、Bystander CPR 実施率向上につながり、心停止患者の転帰改善に有効と考えられる。